

目 次

まえがき

序 章 「政治の野蛮化」？————1

1 問題の所在……1

ドイツ史の連続性と「政治の野蛮化」 「野蛮化」テーゼへの批判 パ
ラミリタリ暴力への注目

2 研 究 史……10

「義勇軍」という名称について 「ナチズムの前衛」？ 義勇軍経験
の位置づけをめぐる 義勇軍運動から抵抗運動へ

3 方法と史料……20

課題と対象設定 経験史の分析視角 史料としてのエゴ・ドキュメ
ント 同時代文脈との照合

第1章 ドイツ革命期における義勇軍運動の形成と展開——31

はじめに 31

1 義勇軍の結成とその背景……32

志願兵部隊設立構想の浮上 ドイツ東方からの要請 義勇軍の結成
と投入

2 ドイツ国内における義勇軍運動……40

ベルリンでの市街戦 ドイツ各地における治安維持 暫定国軍設立
法の成立 バイエルン・レーテ共和国の打倒

3 ドイツ東方における義勇軍運動……48

東部国境地域における「東方国家構想」の浮上 ベロウー揆とその挫
折 バルト地域における一揆主義の胎動 リバウー揆とその挫折

4 義勇軍の社会的構成……61

運動の規模について 軍人層 学生層 小市民層あるいは中間層
とその他 年齢構成と世代構成

小 括 72

第2章 裏切りの共和国

アルベルト・レオ・シュラーゲターの義勇軍経験—————75

はじめに 75

- 1 カトリック青年から前線兵士へ……77
戦場に立つカトリック青年 戦死の宗教的解釈 「野蛮人」との戦い
- 2 前線兵士から前線将校へ……85
将校への昇格 「前線兵士の精鋭」という神話 三月攻勢とその論理 敗北の予感
- 3 義勇軍戦士への道……92
第一次世界大戦からの帰還 メデム義勇軍への志願 義勇軍文学における帰還描写
- 4 バルト地域における暴力・不信・憎悪……98
バルト地域への出征 リガ制圧とその代償 共和国への不信 左翼への憎悪
- 5 反共和国の旗の下に……106
バルト地域からの帰還 大戦末期における「ヒ首伝説」の生成 大戦後における「ヒ首伝説」の普及 反共和国戦線の構築
- 6 暴力のエスカレート……114
ブレスラウのカップー揆 「闇の中の戦争」 一揆主義と民族至上主義の結合
- 7 「ナチ党ベルリン支部」の結成……123
「ナチ党ベルリン支部」をめぐる問題 「ナチ党ベルリン支部」としての大ドイツ労働者党 義勇軍戦士の政治的再結集

小 括 130

第3章 共和国の防衛 ユリウス・レーバーの義勇軍経験—————133

はじめに 133

- 1 社会主義青年から青年将校へ……135
エルザス出身の社会主義青年 大戦への参加 エルザス出身のドイツ軍将校として
- 2 ドイツ社会民主党員の義勇軍運動……140
東部国境守備義勇軍への入隊 ドイツ社会民主党の「秩序症候群」と反

ボルシェヴィズム ドイツ東方における反共和国の胎動

3 ポンメルンにおけるカップー揆との対峙……147

反共和派義勇軍の結集 ポンメルンのカップー揆 カップー揆との対峙と軍からの離脱

4 「ドイツの救済」から「共和国の防衛」へ……153

「ドイツの救済」への期待と失望 「血まみれの闘争」への危機感 「共和国の防衛」の提唱

小 括 159

第4章 コミュニストとの共闘

ヨーゼフ・ベッポ・レーマーの義勇軍経験———161

はじめに 161

1 青年将校から義勇軍戦士へ……163

バイエルンの青年将校 右翼急進派の台頭とアイスナーの暗殺 ミュンヘンの政変とオーバーラント義勇軍の結成

2 コミュニストとの闘争からコミュニストとの共闘へ……170

コミュニストとの闘争とその結末 鉄拳団の結成とバイエルンの「秩序細胞」化 コミュニストへの接近 オーバーシュレージエンにおけるコミュニストとの共闘

3 「^{ライヒ}国の一体性」とナショナル・ボルシェヴィズム……180

オーバーラント同盟の結成 一揆主義批判と「国の一体性」 ナショナル・ボルシェヴィストとして

小 括 186

第5章 ルール闘争期における義勇軍経験の交差———189

はじめに 189

1 ふたつのルール闘争……190

「国民的統一戦線」の形成 ユリウス・レーバーと「消極的抵抗」 義勇軍運動の再活性化とナチ党の政治主義 ヨーゼフ・ベッポ・レーマーと「積極的抵抗」

2 アルベルト・レオ・シュラーゲターの死……198

ルール地方での破壊工作活動 逮捕と投獄 フランス軍事法廷における有罪判決 判決の受け入れと「愛国者」意識 刑の執行をめぐるセンセーション

3 シュラーゲター崇拜と共和国の危機……209

シュラーゲター崇拜の高揚 共和国批判の先鋭化 「国民の英雄」か
「冒険者」か リューベックにおける共和国協会の結成

4 ドイツ共産党の「シュラーゲター路線」……216

カール・ラデックの登場 「反革命の勇敢な兵士」としてのシュラーゲ
ター 「虚無に向かう放浪者」としてのシュラーゲター 「何百という
シュラーゲター」への訴え 「シュラーゲター路線」が遺したもの

小 括 225

終 章 義勇軍経験と戦士たちの政治化——227

1 義勇軍経験をめぐる連続性……227

背景としての第一次世界大戦 「政治の野蛮化」と「ヒ首伝説」 「政治
の野蛮化」に対する反作用

2 義勇軍戦士たちの政治化……232

ナチズムへの合流？ 共和派としての模索 コミュニズムとの共鳴

3 義勇軍経験の行方……237

暴力をともしなうアクティヴィズム ナチズム運動への寄与と抵抗運動へ
の回路

結 語……243

略語一覧……251

史料・文献一覧……253

あとがき……293

年 表……300

人名索引……307